

広島記念病院 外科

臨床実習Ⅱ（2週間コース）研修プログラム

【当院の特性・特徴】

国家公務員共済組合連合会の直営病院として、国家公務員とその家族の健康維持、増進を図ることを目的として昭和25年に開設された。その一方で、開設当初から地域住民の診療を行うなど、地域医療にも力を注いでおり、消化器系疾患に特化したDPC標準病院群として急性期医療を展開している。また、急速な高齢化、2025年問題にむけて、診療報酬体系の見直し及び病床の機能分化を見据え、地域包括ケア病棟を開設した。

病院の基本方針の一つに「地域医療の貢献」とあるように、病・病、病・診間の連携をより一層強化しながら、地域に根差した医療を実践している。

【当院での研修について】

消化器外科、一般外科の研修（主に手術見学）を行う。

医師に必要な基本的診療技能とコミュニケーション技能を身につけ、卒業後の臨床研修を効果的に行うための基礎を形成する。多くの消化器外科手術を行っている当院では、実際の手術に助手として参加することにより、消化器疾患の理解、解剖と術式の理解、手技の習得ができるよう、実践を踏まえて指導を行う。

【広島記念病院 HP】 <https://hiroshimakinen-hp.kkr.or.jp>

【実習責任者】

院長 宮本 勝也

e-mail kmiya0710yahoo.co.jp

【連絡先】

〒730 - 0802 広島市中区本川町一丁目4番3号
広島記念病院 庶務課

m.shiomu@kkrhoiroshimakinen-hp.org

電話 082-292-1271 (代) FAX 082-292-8175

【当院の外科研修の特性】

1. 当院は広島市の中心に位置し、消化器疾患を中心に診療している。
2. 消化器外科（外科一般、消化管、肝胆膵）、肛門外科、乳腺外科、一般外科を診療している。癌の手術だけでなく、急性虫垂炎、急性胆嚢炎、消化管穿孔などの緊急手術も多い。
3. 院長を含め常勤医7名・非常勤医5名の計12人の、比較的少ない人数で数多くの手術を行っている。後期研修医の指導にも力を入れており、多くの手術経験ができるように配慮している。
4. 当院のような、消化器疾患を中心に診療を行っている病院では、短期間であっても多くの手術症例の見学を行うことができ、大変有意義な研修になるものと考えている。

【一般目標】

1. 見学であっても、手術チームの一員として手術に参加することにより、医師としての責任感、職業的な技能、態度などを、自らの実践の中で学ぶ。
2. 基本的診療手技とコミュニケーション技能を身につけ、患者及びその家族と良好な対人関係を築いて診療を進めることができるようになることを目指す。
3. 講義や解剖実習などで学んだことを、実際の手術患者で、より実践的な知識を身につける。
4. 手術以外でもチーム医療にかかわることにより、医師以外の他職種との連携も図れるようになる。

【到達目標（行動目標）】

1. コミュニケーションを通じ、患者および家族と良好な人間関係を築くことができる。
2. 基本的な診療知識に基づき、患者および家族から診療に必要な情報を収集し、取捨選択して整理できる。
3. 身体診察を適切に実施し、所見を解析してその後の診療に必要な情報を収集できる。
4. 術前の治療計画の検討と手術への参加、術後管理の理論的背景と実際を、実習で体得する。
5. 担当する手術において、その解剖と術式を理解する。

6. 適切な手洗い、ガウンテクニックと簡単な縫合、糸結びができる。
7. 外科領域で用いられる主要な検査・治療について、概要、有用性、限界、危険性を説明し、結果を解釈できる。
8. 外科領域における主要疾患について、症候、病態、診断、治療を説明できる。
9. 収集した情報を基に、POMR<問題志向型診療記録>を作成できる。
10. 症例を要約する習慣を身につけ、状況に応じて適切な長さで提示することができる。
11. 診療に必要な知識・情報（MEDLINE やインターネット上で公開されている各種の診療ガイドライン等の電子化情報を含む）を、適切に検索・収集することができる。
12. 医療チームの構成や各構成員（医師、薬剤師、看護師、その他の医療職）の役割分担と連携・責任体制について説明し、チームの一員として参加できる。

【注意事項】

1. 端正な服装を心がけ、清潔な白衣を着用すること。ネームプレートを付け、靴を履くこと（サンダルは禁止）。
2. 患者さんや他の医療スタッフと接する際には大人としての礼節を保ち、態度、言葉遣いに気を配ること。特に、患者さんと接する際には、実習に協力していただくことに対する感謝の気持ちを忘れないこと。
3. 守秘義務、個人情報の管理には常に留意し、患者さんのプライバシー保護にも気を配ること。また、予断や想像に基づく無責任な情報は決して伝えないこと。
4. 欠席、遅刻の場合は必ず届け出ること。
5. 特に手術室においては清潔・不潔の区別に留意し、指導医の指示に従って行動すること。

【実習の内容】

1. オリエンテーション：第1週の月曜日午前中にオリエンテーションを行い、2週間の大まかな実習予定を説明する。
2. ポートフォリオを作成する。実習中に学んだこと、体験したことを実習中毎日漏らさず記入すること。
また、実習中に調べた知識や検索した文献なども、すべて綴じ込みのこと。
3. 病棟業務における、指導医とのチーム医療の実践：
第1週の月曜日に指導医を割り当てる。以後は実習期間中、常時指導医と行動を共にすること。ただし指導医の予定によっては別な指導医と行動をともにすることもありうる。

指導医の受け持つ患者と一緒に診療し、指導医の属する医療チームの1人として入院から退院までの医療に参加すること。

具体的にどのような診療行為を行うかは、逐一指導医の指示を仰ぎ、従うこと。

4. カルテ記載：POMR の実践

病歴聴取や診察で得た所見、また、その後行われた検査の結果や今後の治療方針など、主治医がカルテに記載すべき事柄については、すべて学生用の紙カルテに記載すること。

これは医師が実診療に使うカルテ（電子カルテ）とは別物であるが、主治医として実際に診療用のカルテを書いているつもりで、すべての情報を漏らさず正しい書式で記載すること。

5. 病棟でのベッドサイド回診：外来・手術に入っていない外科医が外科病棟の回診を行っている。

回診に就くことで、患者の概要と現在の治療の進行状態を把握する。

6. 外科術前カンファレンスでのプレゼンテーション

月・火・水・金曜日 8：30～ 3階講義室にて行う。

火 16：45～ 合同カンファレンスを3階講義室にて行う。

指導医の指定した症例について、主治医の代わりに症例提示を行うこと。簡潔に発表できるよう患者情報をまとめ、事前に準備しておくこと。

7. ポートフォリオ

毎日記載し、実習日誌「毎日の振り返り」について、毎日終わらないし、翌日の朝に指導医のコメント・署名をもらうこと。

【週間スケジュール】

時間	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
8 : 30	カンファレンス	ビデオカンファ	カンファレンス		カンファレンス
8 : 45	指導医との打ち合わせ、病棟回診				
午 前	手術見学	手術見学	手術見学	手術見学	手術見学
午 後	手術見学 病棟回診	手術見学 チーム医療 病棟回診	手術見学 病棟回診	手術見学 病棟回診	手術見学 病棟回診
16 : 45 ～ 17 : 15		合同カンファレンス ～ カンサー ボード			

【評価】

学生の評価は以下のように行う。

評価項目	配点
指導医による学生の行動内容の評価	30点
カンファレンスでのプレゼンテーション	20点
学生用のカルテ	20点
ポートフォリオの内容	20点
部長試問	10点

【実習指導医】

外科医長 坂下吉弘